

門真市中学生海外派遣研修
Now or Never～Always Smile～

『帰国後交流会』を開催しました。

日時 平成 27 年 8 月 29 日 (土)
午後 1 時 30 分～ 3 時 30 分

場所 門真市民プラザ内 4 階
教育センター 研修室

出席者 三宅奎介教育長
脇田誠教諭 (門真はすはな中学校)
酒井孝弘副参事 (学校教育課)

海外派遣研修生

大田 咲希	(第三中学校)
知識 仁也	(第三中学校)
米澤 穂乃佳	(第三中学校)
大窪 凌輔	(第四中学校)
高見 友歌	(第五中学校)
松尾 美咲	(第五中学校)
小田 麻友夏	(第七中学校)
山腰 柊真	(第七中学校)
澤井 紀乃楓	(門真はすはな中学校)

第 4 回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストで、最優秀賞、優秀賞を受賞した生徒 9 名が、8 月 1 日から 10 日までオーストラリアのアデレード市に派遣研修に行ってきました。

久しぶりに 9 名の研修生が、顔を合わせ、三宅教育長を囲んで、各自が撮った写真を見ながら、研修を振り返り、酒井副参事の進行で、海外研修に行く前と行った後で変わったと感じること、学んだこと、発見したこと、成長できたことなどを語っていただきました。

酒井 行く前と行った後で変わったことはないですか？



知識 やっぱり向こうの生活でも初めてのことがたくさんあって、チャレンジしていくのが大事だと分かったから、日本でも自分から何事にも積極的にやるようになりました。



教育長 これは大きな発言だね。皆はどう？



澤井 知識君と同じことを思いました。他には、自分が今までいた環境だと変だと思えることが、向こうだと普通だったりしたから、自分が今まで違うと思っていたものを否定するんじゃなくて、ありだと思えるようになりました。大きく考えられるようになりました。



酒井 常識が非常識。人によって違うということかな。



澤井 自分の常識が全部に当てはまる訳じゃないということです。

大窪 今まで大の苦手だったリスニングが、生の英語を聞くことによって、リスニング能力が上がりました。



高見 積極的というのもあるし、英語に対する思いが変わりました。もっと英語が上達するように普段からリスニングや勉強を怠ってはいけないと思いました。



教育長 英語は大事だなと思った？



高見 はい。

山腰 向こうでは、人種が違って仲良くなっていたし、カドボonzのメンバーも初めはあまり話せなかったのに、向こうでは仲良くなれたし、皆けっこう仲良くなるんだと思いました。



小田 オーストラリアは多国籍で、色々なタイプの人がありました。私は、学校でクラスの中でも仲が良い子ばかりと一緒に居て、同じクラスでも話さない子やよく知らない子がいました。そういう子ともしゃべってみたりして、色々な子と仲良くなって、人間関係の輪を広げていきたいと思うようになりました。



大田 行く前は、知らないことにチャレンジするのが怖かったけど、行ってみると、全然分からないことばかりで、チャレンジするしかなかったの、心が鍛えられました。



教育長 心が鍛えられて、その結果はどう？

大田 色々やってみようかなと思いました。

教育長 自信が出てきたのかな？

大田 はい。

米澤 向こうでは、英語でしゃべるなど自分から積極的にいくっていうのが、日本に帰って来てからも、日本語でもしようっていう気持ちにもなりました。



酒井 とても深いもので、英語っていうのは言葉で。皆が今言っているのは、英語じゃなくて、自分が変わったってことね。つまり、心の部分。気持ちとか、態度が変わったって皆言っているよね。心の深いところを見つめ直しているのかなあと感じます。

松尾 行った後は、自分の世界を広げられるようになりました。オーストラリアでは挑戦ばかりだったから、日本に帰ってからもあれやってみようとか色々してみようと思えるようになりました。転入生が2学期から来た時も自分から話しかけることができたし、友達との関係も自分のできることを広げられるようになったと思います。



脇田 みんなの凄さに驚きました。みんなを見る目が変わりました。正直、大丈夫かな、まだそこまで仲良くなっていなさそうだし、プレゼンテーションとかできるかな、小学校で折り紙を英語で教えられるかな、など、不安がいっぱいでした。でも行ってみると、シンガポールの空港着いて、外国人からいっぱい見られている中でもダンスの練習をしていたし、ホストファミリーのところに行く時も堂々としていたし、いきなり”Nice to meet you.”って話しかけて、乗りが良かったというか、バディとも自然に溶け込んでいくことができていました。また、プレゼンテーションもみんな凄かったです。日本でやった時より上手かったと思います。南中ソーランも自身満々で、全て完璧でした。



小学校へのお出張授業も心配でしたが、大窪君が”Come here.”って言って、子どもを集めて、”Let’s play Japanese January game.”って言って、見本示して、グループ作ってくださいとか、一人ずつ来てくださってというのもうまくやっていました。

中学生でここまでできるんだなと驚きを隠せませんでした。こんなに素晴らしい中学生がいるので、先生ももっともっと頑張っていかなければならないと思いました。



酒井 実は、君たちと一緒にいて、僕も脇田先生もとても勉強になりました。君たちと同じくらい、僕たちも伝えたいことがあります。僕たちも僕たちの場所で伝えていきます。オーストラリア、アデレードでこんなこと勉強したよ。もっと視野が広いんだよ。人が違っても仲良くなれるよって。君たちも君たちのレベルで、場所で、自分のペースで良いので、ぜひ広げていって欲しいなと思います。



教育長 色々なお話してくれてありがとうございました。私も毎回、海外派遣研修に行った人たちと話をしているけれど、今回も私自身勉強になりました。その中で、自分が色々な経験をして変わっていったという話を聞くのが良いなと思いました。人は、どんどん経験によって変わっていくと思う。それが、すごく大事だろうと思うね。それが、今までの自分の殻をぬいで、そしてより勇気を持って、積極的に動く自分に変わっていく。これを聞くと凄くうれしいですね。これからそういう気持ちで、周りの人に積極的に働きかけて、生活して行って欲しいと思います。

私は、門真市で中学生海外派遣研修をずっと続けていきたいと考えています。そうするためには、君たちも良かった経験を周りの人にどんどん広げて行って欲しいなと思います。友達、後輩達に積極的にチャレンジすることを勧めて行って欲しいなと思います。

何よりも無事皆が帰って来て良かったと思います。今日は、ありがとうございました。

